

週報

2007年 4月 29日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

今朝の聖書から イスラエルの人々はモーセを指導者として、奴隷の地エジプトを脱出し、100万人以上の男女子供が40年間、砂漠をさまよい、さまざまなことを経験を通して教えられ、約束の地、カナンに進み行くこととなります。今日の聖書箇所は、この40年の内のほんの始まったばかりの出来事となります。16:1に“エジプトの地を出て二か月目の十五日に、エリムとシナイとの間にあるシンの荒野にきた”とあります。ここでモーセに人々はつぶやくことになるのですが、それは比較によるものでした。16:3で“われわれはエジプトの地で、肉のなべのかたわらに座し、飽きるほどパンを食べていた時・・・”と述べています。“それに比べると”というわけです。私たちも、比較することをよくしますが、何を何に比較して、怒ったり不安になったりしているのかを、何時も考えなければならないでしょう。そこで神様は理想的な食べ物、マナを人々に与えられるのです。“見よ、わたしはあなたがたのために、天からパンを降らせよう”と4節は書き始めています。そしてその目的を、“こうして彼らがわたしの律法に従うかどうかを試みよう”と神様は仰っているのです。毎日人々はマナを集めなければなりません(4節)。安息日の前には集めたものは二日分になり、安息日に働くことはしなくてすむこととなります(5節)。マナは、蓄積することはできませんでした。ここが穀物と大いに異なるところです。要するに沢山集めて、裕福になる人ができないようにされたのです。しかしマナは、確実に毎日、全員に与えられました。平等だったのです。経済学的にもそうです。後に人々は麦畑や、ぶどう園を作ることになりますが、罪深い人々には、収穫物を、民全体のために正しく、分け隔てなく用いることができなかつたのです。そのようなカナンを委ね、管理させるにふさわしい民に変えられる為に、神様はまず、この理想的な食物、天からのパン、マナをもって人々に、主なる神について教えられたのです。この時代の人々には想像できないほど、現代人は、多くの自然界を管理していますが、それに応じて“管理責任”もまた大きくなっています。主が私たちに何を期待しておられるのかももう一度知りたいと思います。そうしないと、“奴隷の地は良かった”ということになってしまうのではないのでしょうか。